



QoS コマンド

この章では、次の QoS コマンドについて説明します。

- [auto qos](#) (2 ページ)
- [class](#) (3 ページ)
- [class-map](#) (6 ページ)
- [match](#) (クラスマップ コンフィギュレーション) (8 ページ)
- [match non-client-nrt](#) (11 ページ)
- [match wlan user-priority](#) (12 ページ)
- [policy-map](#) (13 ページ)
- [priority](#) (16 ページ)
- [qos queue-softmax-multiplier](#) (18 ページ)
- [queue-buffers ratio](#) (19 ページ)
- [queue-limit](#) (21 ページ)
- [service-policy](#) (有線) (23 ページ)
- [service-policy](#) (WLAN) (25 ページ)
- [set](#) (27 ページ)
- [show ap name service-policy](#) (34 ページ)
- [show ap name dot11](#) (35 ページ)
- [show class-map](#) (38 ページ)
- [show wireless client calls](#) (39 ページ)
- [show wireless client dot11](#) (40 ページ)
- [show wireless client mac-address](#) (コール制御) (41 ページ)
- [show wireless client mac-address](#) (TCLAS) (42 ページ)
- [show wireless client voice diagnostics](#) (43 ページ)
- [show policy-map](#) (44 ページ)
- [show wlan](#) (49 ページ)
- [trust device](#) (52 ページ)

auto qos

自動 QoS ワイヤレス ポリシーを有効にするには、**auto QoS** コマンドを使用します。自動 QoS ワイヤレス ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

auto qos enterprise|guest|voice

構文の説明

enterprise 自動 QoS ワイヤレス 企業ポリシーを有効にします。

guest 自動 QoS ワイヤレス ゲスト ポリシーを有効にする

voice 自動 QoS ワイヤレス 音声ポリシーを有効にする

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

WLAN の設定

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.7.0	このコマンドが導入されました。

E

次に、自動 QoS ワイヤレス 企業ポリシーを有効にする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)#wlan wlan1
Switch(config-wlan)#auto qos enterprise
```

class

指定されたクラスマップ名のトラフィックを分類する一致基準を定義するには、ポリシーマップコンフィギュレーションモードで **class** コマンドを使用します。既存のクラスマップを削除する場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
class {class-map-name|class-default}
no class {class-map-name|class-default}
```

構文の説明

class-map-name クラス マップ名。

class-default 分類されていないパケットに一致するシステムのデフォルト クラスを参照します。

コマンドデフォルト

ポリシー マップ クラス マップは定義されていません。

コマンドモード

ポリシー マップ コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

class コマンドを使用する前に、**policy-map** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してポリシー マップを識別し、ポリシーマップ コンフィギュレーション モードを開始する必要があります。ポリシー マップを指定すると、ポリシー マップ内で新規クラスのポリシーを設定したり、既存クラスのポリシーを変更したりすることができます。**service-policy** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、ポリシー マップをポートへ添付することができます。

class コマンドを入力すると、ポリシーマップクラス コンフィギュレーション モードが開始されます。使用できるコンフィギュレーション コマンドは、次のとおりです。

- **admit** : コール アドミッション制御 (CAC) の要求を許可します。
- **bandwidth** : クラスに割り当てられる帯域幅を指定します。
- **exit** : ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを終了し、ポリシー マップ コンフィギュレーション モードに戻ります。
- **no** : コマンドをデフォルト設定に戻します。
- **police** : 分類したトラフィックにポリサーまたは集約ポリサーを定義します。ポリサーは、帯域幅の限度およびその限度を超過した場合に実行するアクションを指定します。このコマンドの詳細については、Cisco.com で入手可能な『Cisco IOS Quality of Service Solutions Command Reference』を参照してください。

- **priority** : ポリシー マップに属するトラフィックのクラスにスケジューリングプライオリティを割り当てます。
- **queue-buffers** : クラスのキュー バッファを設定します。
- **queue-limit** : ポリシー マップに設定されたクラス ポリシー用にキューが保持できる最大パケット数を指定します。
- **service-policy** : QoS サービス ポリシーを設定します。
- **set** : 分類したトラフィックに割り当てる値を指定します。詳細については、次のサイトを参照してください。 [set \(27 ページ\)](#)
- **shape** : 平均またはピーク レートトラフィックシェーピングを指定します。このコマンドの詳細については、Cisco.com で入手可能な『*Cisco IOS Quality of Service Solutions Command Reference*』を参照してください。

ポリシーマップ コンフィギュレーション モードに戻るには、**exit** コマンドを使用します。特権 EXEC モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

class コマンドは、**class-map** グローバルコンフィギュレーション コマンドと同じ機能を実行します。他のポートと共有していない新しい分類が必要な場合は、**class** コマンドを使用します。多数のポート間でマップを共有する場合には、**class-map** コマンドを使用します。

classclass-default ポリシーマップ コンフィギュレーション コマンドを使用して、デフォルトクラスを設定できます。分類されていないトラフィック（トラフィッククラスで指定された一致基準を満たさないトラフィック）は、デフォルトトラフィックとして処理されます。

設定を確認するには、**show policy-map** 特権 EXEC コマンドを入力します。

例

次に、**policy1** という名前のポリシーマップを作成する例を示します。このコマンドが入力方向に添付された場合、**class1** で定義されたすべての着信トラフィックの照合を行い、IP DiffServ コードポイント (DSCP) を 10 に設定し、平均レート 1 Mb/s、バースト 20 KB のトラフィックをポリシングします。プロファイルを超えるトラフィックは、ポリシング設定 DSCP マップから取得した DSCP 値がマークされてから送信されます。

```
Switch(config)# policy-map policy1
Switch(config-pmap)# class class1
Switch(config-pmap-c)# set dscp 10
Switch(config-pmap-c)# police 1000000 20000 exceed-action policed-dscp-transmit
Switch(config-pmap-c)# exit
```

次に、ポリシーマップにデフォルトのトラフィッククラスを設定する例を示します。また、**class-default** が最初に設定された場合でも、デフォルトのトラフィッククラスをポリシー マップ **pm3** の終わりに自動的に配置する方法も示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# class-map cm-3
Switch(config-cmap)# match ip dscp 30
Switch(config-cmap)# exit

Switch(config)# class-map cm-4
```

```
Switch(config-cmap) # match ip dscp 40
Switch(config-cmap) # exit

Switch(config) # policy-map pm3
Switch(config-pmap) # class class-default
Switch(config-pmap-c) # set dscp 10
Switch(config-pmap-c) # exit

Switch(config-pmap) # class cm-3
Switch(config-pmap-c) # set dscp 4
Switch(config-pmap-c) # exit

Switch(config-pmap) # class cm-4
Switch(config-pmap-c) # set precedence 5
Switch(config-pmap-c) # exit
Switch(config-pmap) # exit

Switch# show policy-map pm3
Policy Map pm3
  Class cm-3
    set dscp 4
  Class cm-4
    set precedence 5
  Class class-default
    set dscp af11
```

関連トピック

- [class-map](#) (6 ページ)
- [policy-map](#) (13 ページ)
- [show policy-map](#) (44 ページ)
- [set](#) (27 ページ)

class-map

名前を指定したクラスとパケットの照合に使用するクラス マップを作成し、クラスマップ コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **class-map** コマンドを使用します。既存のクラス マップを削除し、グローバル コンフィギュレーション モードまたはポリシー マップ コンフィギュレーション モードに戻るには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

class-map [{match-anytype}] *class-map-name*
no class-map [{match-anytype}] *class-map-name*

構文の説明

match-any (任意) このクラスマップ内の一致ステートメントの論理和をとります。1つ以上の条件が一致していなければなりません。

type (任意) CPL クラス マップを設定します。

class-map-name クラス マップ名。

コマンド デフォルト

クラス マップは定義されていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

ポリシー マップ コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、 、	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE 3.3SE	type キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

クラス マップ一致基準を作成または変更するクラスの名前を指定し、クラス マップ コンフィギュレーション モードを開始する場合は、このコマンドを使用します。

ポートごとに適用される、グローバルに名前が付けられたサービス ポリシーの一部として、パケットの分類、マーキング、および集約ポリシングを定義する場合は、**class-map** コマンドおよびそのサブコマンドを使用します。

Quality of Service (QoS) クラスマップ コンフィギュレーション モードでは、次のコンフィギュレーション コマンドを利用することができます。

- **description** : クラス マップを説明します (最大 200 文字)。 **show class-map** 特権 EXEC コマンドは、クラス マップの説明と名前を表示します。
- **exit** : QoS クラスマップ コンフィギュレーション モードを終了します。
- **match** : 分類基準を設定します。
- **no** : クラス マップから一致ステートメントを削除します。

match-any キーワードを入力した場合、**match access-group** クラスマップ コンフィギュレーション コマンドで名前付き拡張アクセス コントロール リスト (ACL) を指定するためにのみ使用できます。

物理ポート単位でパケット分類を定義するために、クラス マップごとに1つの **match** コマンドのみがサポートされています。

ACL には複数のアクセス コントロール エントリ (ACE) を含めることができます。

例

次に、クラス マップ **class1** に1つの一致基準 (アクセス リスト 103) を設定する例を示します。

```
Switch(config)# access-list 103 permit ip any any dscp 10
Switch(config)# class-map class1
Switch(config-cmap)# match access-group 103
Switch(config-cmap)# exit
```

次に、クラス マップ **class1** を削除する例を示します。

```
Switch(config)# no class-map class1
```

設定を確認するには、**show class-map** 特権 EXEC コマンドを入力します。

関連トピック

[policy-map](#) (13 ページ)

[show policy-map](#) (44 ページ)

match (クラスマップコンフィギュレーション)

トラフィックを分類するための一致基準を定義するには、クラスマップコンフィギュレーションモードで **match** コマンドを使用します。一致基準を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match {access-group{nameacl-nameacl-index}|class-map class-map-name|cos cos-value|dscp
dscp-value|[ ip ] dscp dscp-list|[ip] precedence ip-precedence-list|precedence
precedence-value1...value4|qos-group qos-group-value|vlan vlan-id}
no match {access-group{nameacl-nameacl-index}|class-map class-map-name|cos cos-value|dscp
dscp-value|[ ip ] dscp dscp-list|[ip] precedence ip-precedence-list|precedence
precedence-value1...value4|qos-group qos-group-value|vlan vlan-id}
```

構文の説明

access-group	アクセス グループを指定します。
name <i>acl-name</i>	IP 標準または拡張アクセス コントロール リスト (ACL) または MAC ACL の名前を指定します。
<i>acl-index</i>	IP 標準または拡張アクセス コントロール リスト (ACL) または MAC ACL の番号を指定します。IP 標準 ACL の場合、ACL インデックス範囲は 1 ~ 99 および 1300 ~ 1999 です。IP 拡張 ACL の場合、ACL インデックス範囲は 100 ~ 199 および 2000 ~ 2699 です。
class-map <i>class-map-name</i>	トラフィック クラスを分類ポリシーとして使用し、使用するトラフィッククラスの名前を一致基準として指定します。
cos <i>cos-value</i>	レイヤ2 サービスクラス (CoS) /Inter-Switch Link (ISL) マーキングに基づいてパケットを照合します。CoS 値は 0 ~ 7 です。1 つの match cos ステートメントに最大 4 つの CoS 値をスペースで区切って指定できます。
dscp <i>dscp-value</i>	各 DSCP 値のパラメータを指定します。DiffServ コードポイント値を指定する 0 ~ 63 の範囲の値を指定できます。
ip dscp <i>dscp-list</i>	着信パケットとの照合を行うための、最大 8 つまでの IP DiffServ コードポイント (DSCP) 値の一覧を指定します。各値はスペースで区切ります。指定できる範囲は 0 ~ 63 です。一般的に使用する値に対してはニーモニック名を入力することもできます。

ip precedence <i>ip-precedence-list</i>	着信パケットとの照合を行うための、最大 8 つの IP プレシデンス値の一覧を指定します。各値はスペースで区切ります。指定できる範囲は 0 ~ 7 です。一般的に使用する値に対してはニーモニック名を入力することもできます。
precedence <i>precedence-value1...value4</i>	分類されたトラフィックに IP プレシデンス値を割り当てます。指定できる範囲は 0 ~ 7 です。一般的に使用する値に対してはニーモニック名を入力することもできます。
qos-group <i>qos-group-value</i>	特定の QoS グループ値を一致基準として識別します。指定できる範囲は 0 ~ 31 です。
vlan <i>vlan-id</i>	特定の VLAN を一致基準として指定します。指定できる範囲は 1 ~ 4095 です。

コマンドデフォルト

一致基準は定義されません。

コマンドモード

クラスマップ コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.2SE、 Cisco IOS XE 3.3SE	このコマンドが導入されました。
	class-map <i>class-map-name</i> 、 cos <i>cos-value</i> 、 qos-group <i>qos-group-value</i> 、および vlan <i>vlan-id</i> キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

パケットを分類するために着信パケットのどのフィールドを調べるのかを指定する場合は、**match** コマンドを使用します。IP アクセス グループまたは MAC アクセス グループの Ether Type/Len のマッチングだけがサポートされています。

class-map *match-any class-map-name* グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力した場合、次の **match** コマンドを入力できます。

- **match** *access-groupname acl-name*



(注) ACL は、名前付き拡張 ACL にする必要があります。

- **match ip dscp** *dscp-list*
- **match ip precedence** *ip-precedence-list*

match access-group *acl-index* コマンドはサポートされていません。

物理ポート単位でパケット分類を定義するために、クラス マップごとに 1 つの **match** コマンドのみがサポートされています。この場合、**match-any** キーワードと同じです。

match ip dscp dscp-list コマンドまたは **match ip precedence ip-precedence-list** コマンドの場合は、よく使用される値のニーモニック名を入力できます。たとえば、**match ip dscp af11** コマンドを入力できます。このコマンドは、**match ip dscp 10** コマンドを入力した場合と同じ結果になります。また、**match ip precedence critical** コマンドを入力できます。このコマンドは、**match ip precedence 5** コマンドを入力した場合と同じ結果になります。サポートされているニーモニックの一覧を表示するには、**match ip dscp ?** または **match ip precedence ?** コマンドを入力して、コマンドラインのヘルプ文字列を参照してください。

階層ポリシー マップ内にインターフェイス レベルのクラス マップを設定するときには、**input-interface interface-id-list** キーワードを使用します。*interface-id-list* には、最大 6 つのエントリを指定することができます。

例

次の例では、クラス マップ **class2** を作成する方法を示します。このマップは、DSCP 値 10、11、および 12 を持つすべての着信トラフィックに一致します。

```
Switch(config)# class-map class2
Switch(config-cmap)# match ip dscp 10 11 12
Switch(config-cmap)# exit
```

次の例では、クラス マップ **class3** を作成する方法を示します。このマップは、IP precedence 値 5、6、および 7 を持つすべての着信トラフィックに一致します。

```
Switch(config)# class-map class3
Switch(config-cmap)# match ip precedence 5 6 7
Switch(config-cmap)# exit
```

次の例では、IP precedence 一致基準を削除し、**acl1** を使用してトラフィックを分類する方法を示します。

```
Switch(config)# class-map class2
Switch(config-cmap)# match ip precedence 5 6 7
Switch(config-cmap)# no match ip precedence
Switch(config-cmap)# match access-group acl1
Switch(config-cmap)# exit
```

次の例では、階層ポリシー マップでインターフェイス レベルのクラス マップが適用する物理ポートのリストの指定方法を示しています。

```
Switch(config)# class-map match-any class4
Switch(config-cmap)# match cos 4
Switch(config-cmap)# exit
```

次の例では、階層ポリシー マップでインターフェイス レベルのクラス マップが適用する物理ポートの範囲の指定方法を示しています。

```
Switch(config)# class-map match-any class4
Switch(config-cmap)# match cos 4
Switch(config-cmap)# exit
```

設定を確認するには、**show class-map** 特権 EXEC コマンドを入力します。

match non-client-nrt

NRT（非リアルタイム）で非クライアントを照合するには、クラスマップ コンフィギュレーションモードで **matchnon-client-nrt** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

match non-client-nrt
no match non-client-nrt

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

クラスマップ

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.2SE、、、、	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

なし

次に、NRT で非クライアントを設定する例を示します。

```
Switch(config)# class-map test_1000  
Switch(config-cmap)# match non-client-nrt
```

match wlan user-priority

802.11 固有の値を照合するには、クラスマップ コンフィギュレーション モードで **matchwlanuser-priority** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match wlan user-priority wlan-value [wlan-value] [wlan-value] [wlan-value]
no match wlan user-priority wlan-value [wlan-value] [wlan-value] [wlan-value]
```

構文の説明

wlan-value 802.11 固有の値。ユーザプライオリティ 802.11 TID user priority (0-7) を入力します。(任意) ユーザプライオリティ値を3つまで、空白文字区切りで入力します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

クラス マップ コンフィギュレーション (config-cmap)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.2SE、、、、	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

なし

次に、ユーザプライオリティ値を設定する例を示します。

```
Switch(config)# class-map test_1000
Switch(config-cmap)# match wlan user-priority 7
```

policy-map

複数の物理ポートまたはスイッチ仮想インターフェイス（SVI）に適用し、ポリシーマップコンフィギュレーションモードを開始できるポリシーマップを作成または変更するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **policy-map** コマンドを使用します。既存のポリシーマップを削除し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻るには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
policy-map policy-map-name
no policy-map policy-map-name
```

構文の説明

policy-map-name ポリシー マップ名です。

コマンドデフォルト

ポリシー マップは定義されません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.2SE、	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

policy-map コマンドを入力すると、ポリシーマップコンフィギュレーションモードに入り、次のコンフィギュレーションコマンドが使用可能になります。

- **class** : 指定したクラス マップの分類一致基準を定義します。
- **description** : ポリシー マップを説明します（最大 200 文字）。
- **exit** : ポリシーマップコンフィギュレーションモードを終了し、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
- **no** : 定義済みポリシー マップを削除します。
- **sequence-interval** : シーケンス番号機能をイネーブルにします。

グローバル コンフィギュレーションモードに戻るには、**exit** コマンドを使用します。特権 EXEC モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

一致基準がクラス マップに定義されているクラスのポリシーを設定する前に、**policy-map** コマンドを使用して作成、追加または変更するポリシーマップの名前を指定します。**policy-map** コマンドを入力した場合も、ポリシーマップコンフィギュレーションモードがイネーブルになり、このモードでポリシーマップのクラスポリシーを設定または変更することができます。

クラス ポリシーをポリシー マップ内で設定できるのは、クラスに一致基準が定義されている場合だけです。クラスの一致基準を設定するには、**class-map** グローバルコンフィギュレーション

ン コマンドおよび **match** クラスマップ コンフィギュレーション コマンドを使用します。物理ポート単位でパケット分類を定義します。

入力ポートごとに1つのポリシー マップのみがサポートされます。同じポリシー マップを複数の物理ポートに適用できます。

物理ポートに非階層ポリシー マップを適用できます。非階層ポリシー マップは、スイッチのポート ベース ポリシー マップと同じです。

階層ポリシー マップには親子ポリシーの形式で2つのレベルがあります。親ポリシーは変更できませんが、子ポリシー (port-child ポリシー) は、QoS 設定に合わせて変更できます。

VLAN ベースの QoS では、サービス ポリシーが SVI インターフェイスに適用されます。VLAN ポリシー マップに属するすべての物理インターフェイスは、ポートベースのポリシー マップの代わりに VLAN ベースのポリシー マップが表示されるように設定する必要があります。



- (注) 有線およびワイヤレスポートですべての MQC QoS の組み合わせがサポートされているわけではありません。これらの制限の詳細については、サービス品質 (QoS) 構成ガイドの「有線ターゲットの QoS の制限」および「ワイヤレスターゲットの QoS の制限」に関する章を参照してください。

例

次の例では、**policy1** という名前のポリシー マップを作成する方法を示します。入力ポートに適用した場合、**class1** で定義されたすべての着信トラフィックの照合を行い、IP DSCP を 10 に設定し、平均伝送速度 1 Mb/s、バースト 20 KB のトラフィックをポリシングします。プロファイル未満のトラフィックが送信されます。

```
Switch(config)# policy-map policy1
Switch(config-pmap)# class class1
Switch(config-pmap-c)# set dscp 10
Switch(config-pmap-c)# police 1000000 20000 conform-action transmit
Switch(config-pmap-c)# exit
```

次に、階層ポリシーを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# class-map c1
Switch(config-cmap)# exit

Switch(config)# class-map c2
Switch(config-cmap)# exit

Switch(config)# policy-map child
Switch(config-pmap)# class c1
Switch(config-pmap-c)# priority level 1
Switch(config-pmap-c)# police rate percent 20 conform-action transmit exceed action drop
Switch(config-pmap-c-police)# exit
Switch(config-pmap-c)# exit

Switch(config-pmap)# class c2
Switch(config-pmap-c)# bandwidth 20000
Switch(config-pmap-c)# exit

Switch(config-pmap)# class class-default
```

```
Switch(config-pmap-c)# bandwidth 20000
Switch(config-pmap-c)# exit
Switch(config-pmap)# exit

Switch(config)# policy-map parent
Switch(config-pmap)# class class-default
Switch(config-pmap-c)# shape average 1000000
Switch(config-pmap-c)# service-policy child
Switch(config-pmap-c)# end
```

次に、ポリシー マップを削除する例を示します。

```
Switch(config)# no policy-map policymap2
```

設定を確認するには、**show policy-map** 特権 EXEC コマンドを入力します。

関連トピック

- [class](#) (3 ページ)
- [class-map](#) (6 ページ)
- [service-policy](#) (有線) (23 ページ)
- [show policy-map](#) (44 ページ)

priority

ポリシーマップに属するトラフィックのクラスにプライオリティを割り当てるには、ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション モードで **priority** コマンドを使用します。以前に指定したクラスのプライオリティを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
priority [Kbps [burst -in-bytes] ] | level level-value [Kbps [burst -in-bytes] ] | percent
percentage [Kb/s [burst -in-bytes] ] ]
no priority [Kb/s [burst -in-bytes] ] | level level value [Kb/s [burst -in-bytes] ] | percent
percentage [Kb/s [burst -in-bytes] ] ] ]
```

構文の説明

<i>Kbps</i>	(任意) プライオリティ トラフィック向けの保証帯域幅 (キロビット/秒 (kbps))。帯域幅の量は、使用中のインターフェイスとプラットフォームによって異なります。保証帯域幅を超えると、非プライオリティ トラフィックがなくならないようにするため、プライオリティ トラフィックが輻輳のイベントでドロップされます。値は 1 ~ 2,000,000 kbps である必要があります。
<i>burst -in-bytes</i>	(任意) バイト単位のバースト サイズ。バースト サイズは、トラフィックの一時的なバーストに対応するネットワークを設定します。デフォルトバースト値は、設定されている帯域幅レートで、200 ミリ秒のトラフィックとして計算され、burst 引数が指定されていない場合に使用されます。バーストの範囲は 32 ~ 2000000 バイトです。
<i>level level-value</i>	(任意) プライオリティ レベルを割り当てます。level-value の有効値は 1 と 2 です。レベル 1 はレベル 2 よりもプライオリティが高くなります。レベル 1 は帯域幅を予約して最初に送信を行うため、遅延は非常に低くなります。
<i>percent percentage</i>	(任意) 保証帯域幅の量が、使用可能な帯域幅の割合 (%) によって指定されることを、指定します。

コマンド デフォルト プライオリティは設定されません。

コマンド モード ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション (config-pmap-c)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.2SE、、、、	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE 3.3SE	<i>Kbps</i> 、 <i>burst -in-bytes</i> および percent percentage キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン priority コマンドを使用すると、（User Datagram Ports（UDP）ポートだけではなく）さまざまな基準に基づいてクラスと設定し、プライオリティを割り当てることができます。これは、シリアルインターフェイスと ATM 相手先固定接続（PVC）で使用できます。類似の **ip rtp priority** コマンドを使用すると、UDP ポート番号にだけ基づいてプライオリティフローを決定することができ、ATM PVC は使用できません。

同じポリシーマップ内では、**bandwidth** コマンドおよび **priority** コマンドは、同じクラスに使用できません。ただし、これらのコマンドは、同じポリシーマップ内では一緒に使用できます。

ポリシーマップで、1つまたは複数のクラスにプライオリティステータスを指定できます。単一ポリシーマップ内の複数のクラスがプライオリティクラスとして設定されると、これらのクラスからのすべてのトラフィックが、同じ単一のプライオリティキューにキューイングされます。

クラスポリシー設定が含まれているポリシーマップがインターフェイスに付加されて、そのインターフェイスのサービスポリシーが決定される場合、使用可能な帯域幅が評価されます。インターフェイスの帯域幅が不十分なことが原因で、特定のインターフェイスにポリシーマップがアタッチできない場合、そのポリシーは、正常にアタッチされていたすべてのインターフェイスから削除されます。

例

次に、ポリシーマップ **policy1** のクラスのプライオリティを設定する例を示します。

```
Switch(config)# class-map cm1
Switch(config-cmap)#match precedence 2
Switch(config-cmap)#exit

Switch(config)#class-map cm2
Switch(config-cmap)#match dscp 30
Switch(config-cmap)#exit

Switch(config)# policy-map policy1
Switch(config-pmap)# class cm1
Switch(config-pmap-c)# priority level 1
Switch(config-pmap-c)# police 1m
Switch(config-pmap-c-police)#exit
Switch(config-pmap-c)#exit
Switch(config-pmap)#exit

Switch(config)#policy-map policy1
Switch(config-pmap)#class cm2
Switch(config-pmap-c)#priority level 2
Switch(config-pmap-c)#police 1m
```

qos queue-softmax-multiplier

softmax バッファの値を増やすには、グローバル コンフィギュレーション モードで **qos queue-softmax-multiplier** コマンドを使用します。

range-of-multiplier

no qos queue-softmax-multiplier *range-of-multiplier*

構文の説明	<i>range-of-multiplier</i>	値は、100～1200の範囲で指定できます。デフォルト値は100です。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション (config)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE 3.6.3 および Cisco IOS XE 3.7.2 このコマンドが導入されました。	

使用上のガイドライン



- (注) このコマンドは、ポリシー マップが対応付けられているポートでのみ有効です。1200 で設定されている場合、非プライオリティキューおよび非プライマリプライオリティキュー (!=level 1) の softmax は、それぞれのデフォルト値に 12 を乗じた値になります。このコマンドは、プライオリティ キュー レベル 1 には適用されません。

queue-buffers ratio

クラスのキューバッファを設定するには、ポリシーマップクラス コンフィギュレーションモードで **queue-buffers ratio** コマンドを使用します。比率制限を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

queue-buffers ratio *ratio limit*
no queue-buffers ratio *ratio limit*

構文の説明	<i>ratio</i> (任意) クラスのキューバッファを設定します。キューバッファの比率制限 (0 ~ <i>limit</i> 100) を入力します。
コマンドデフォルト	クラスのキューバッファは定義されていません。
コマンドモード	ポリシーマップクラス コンフィギュレーション (config-pmap-c)
コマンド履歴	リリース 変更内容 Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用する前に、**bandwidth**、**shape** または **priority** コマンドを使用する必要があります。これらのコマンドの詳細については、Cisco.com で入手可能な *Cisco IOS Quality of Service* ソリューションのコマンドリファレンスを参照してください。

スイッチを使用すると、キューにバッファを割り当てることができます。バッファが割り当てられていない場合、すべてのキューの間で均等に分割されます。queue-buffer ratio を使用して、特定の比率で分割できます。デフォルトでは、ダイナミックしきい値およびスケールング (DTS) がすべてのキューでアクティブであるため、バッファはソフト バッファです。



(注) queue-buffer ratio は有線ポートと無線ポートの両方でサポートされますが、queue-buffer ratio は queue-limit とともに設定することはできません。

例

次にキューバッファの比率を 10% に設定する例を示します。

```
Switch(config)# policy-map policy_queuebuf01
Switch(config-pmap)# class-map class_queuebuf01
Switch(config-cmap)# exit
Switch(config)# policy policy_queuebuf01
Switch(config-pmap)# class class_queuebuf01
Switch(config-pmap-c)# bandwidth percent 80
Switch(config-pmap-c)# queue-buffers ratio 10
Switch(config-pmap)# end
```

設定を確認するには、**show policy-map** 特権 EXEC コマンドを入力します。

関連トピック

[show policy-map](#) (44 ページ)

queue-limit

キューが保持できる、ポリシー マップ内に設定されたクラス ポリシーのパケットの最大数を指定または変更するには、**queue-limit** ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション コマンドを使用します。クラスからキュー パケット制限を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

queue-limit *queue-limit-size*[{packets}] {**cos** *cos-value*|**dscp** *dscp-value*} **percent**
percentage-of-packets

no **queue-limit** *queue-limit-size*[{packets}] {**cos** *cos-value*|**dscp** *dscp-value*} **percent**
percentage-of-packets

構文の説明

<i>queue-limit-size</i>	キューの最大サイズ。最大値は、オプションの指定される測定単位用キーワード (bytes、ms、または packets) の単位によって異なります。
cos <i>cos-value</i>	各 cos 値のパラメータを指定します。CoS 値の範囲は 0 ~ 7 です。
dscp <i>dscp-value</i>	各 DSCP 値のパラメータを指定します。 キュー制限のタイプに合わせて DiffServ コードポイント値を指定します。範囲は 0 ~ 63 です。
percent <i>percentage-of-packets</i>	このクラスのキューが蓄積できるパケットの最大割合を指定します。範囲は 1 ~ 100 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション (policy-map-c)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.2SE、、、、	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

packets 測定単位は、コマンドラインのヘルプ文字列には表示されますが、サポートされていません。**percent** 測定単位を使用してください。



(注) このコマンドは、出力方向の有線ポートでのみサポートされています。

Weighted Fair Queueing (WFQ) により、クラス マップが定義される各クラスのキューが作成されます。クラスの一致条件を満たすパケットは、送信されるまで、このクラス専用のキューに蓄積されます。この処理は、均等化キューイングプロセスによってキューが処理される場合

に発生します。クラスに定義した最大パケットしきい値に達すると、クラスキューへのそれ以降のパケットのキューイングは、テールドロップされます。

重み付けテールドロップ (WTD) を設定するためにキュー制限を使用します。WTDを使用すると、キューごとに複数のしきい値を設定できます。各サービスクラスが異なるしきい値でドロップされて QoS 差別化が実現されます。

トラフィックの異なるサブクラス、つまり、DSCP と CoS に最大キューしきい値を設定し、各サブクラスに最大キューしきい値を設定できます。

例

次の例では、`dscp-1` というクラスのポリシーを含めるために `port-queue` というポリシーマップを設定しています。このクラスのポリシーは、確保されているキューの最大パケット制限が 20% になるように設定されています。

```
Switch(config)# policy-map policy11
Switch(config-pmap)# class dscp-1
Switch(config-pmap-c)# bandwidth percent 20
Switch(config-pmap-c)# queue-limit dscp 1 percent 20
```

service-policy (有線)

物理ポートまたはスイッチ仮想インターフェイス (SVI) のにポリシー マップを適用するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **service-policy** コマンドを使用します。ポリシー マップとポートの対応付けを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
service-policy {input | output} policy-map-name
no service-policy {input | output} policy-map-name
```

構文の説明

input *policy-map-name* 物理ポートまたは SVI の入力に、指定したポリシー マップを適用します。

output *policy-map-name* 物理ポートまたは SVI の出力に、指定したポリシー マップを適用します。

コマンド デフォルト

ポートにポリシー マップは適用されていません。

コマンド モード

WLAN インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.2SE、 、 、 、	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ポリシー マップは、**policy map** コマンドによって定義されます。

1つのポートごとに入力と出力に関して1つのポリシー マップだけがサポートされます。つまり、いずれのポートにおいても、1つの入力ポリシーと1つの出力ポリシーだけを使用できます。

ポリシー マップは、物理ポートまたは SVI 上の着信トラフィックに適用できます。『*QoS Configuration Guide (Catalyst 3850 Switches)*』。



(注) **history** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtringには表示されますが、サポートされていません。このキーワードが収集した統計情報は無視します。

例

次の例では、物理入力ポートに **plcmap1** を適用する方法を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# service-policy input plcmap1
```

次の例では、物理ポートから **plcmap2** を削除する方法を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitEthernet2/0/2
Switch(config-if)# no service-policy input plcmap2
```

次の例では、VLANのポリサー設定を表示します。この設定の最後に、QoSのインターフェイスにVLANポリシーマップを適用します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# class-map vlan100
Switch(config-cmap)# match vlan 100
Switch(config-cmap)# exit
Switch(config)# policy-map vlan100
Switch(config-pmap)# policy-map class vlan100
Switch(config-pmap-c)# police 100000 bc conform-action transmit exceed-action drop
Switch(config-pmap-c-police)# end
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface gigabitEthernet1/0/5
Switch(config-if)# service-policy input vlan100
```

設定を確認するには、**show running-config** 特権 EXEC コマンドを入力します。

関連トピック

[policy-map](#) (13 ページ)

[show policy-map](#) (44 ページ)

service-policy (WLAN)

WLAN サービス品質 (QoS) サービス ポリシーを設定するには、**service-policy** コマンドを使用します。WLAN の QoS ポリシーを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
service-policy [client] {input|output} policy-name
no service-policy [client] {input|output} policy-name
```

構文の説明	<p>client (任意) WLAN 上のすべてのクライアントにポリシーマップを割り当てます。</p> <p>input 入力ポリシー マップを割り当てます。</p> <p>output 出力ポリシー マップを割り当てます。</p> <p><i>policy-name</i> ポリシー名。</p>				
コマンドデフォルト	ポリシーが割り当てられない場合、ポリシーに割り当てられる状態は [None] になります。				
コマンドモード	WLAN の設定				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE 3.2SE、</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE 3.2SE、	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE 3.2SE、	このコマンドが導入されました。				
使用上のガイドライン	このコマンドを使用する前に、WLAN をディセーブルにする必要があります。WLAN をディセーブルにする方法の詳細については、「関連コマンド」の項を参照してください。				

例

次の例では、WLAN の入力 QoS サービス ポリシーを設定する方法を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# wlan wlan1
Switch(config-wlan)# service-policy input policy-test
```

次の例では、WLAN の入力 QoS サービス ポリシーをディセーブルにする方法を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# wlan wlan1
Switch(config-wlan)# no service-policy input policy-test
```

次に、WLAN の出力 QoS サービス ポリシーを platinum (貴金属ポリシー) に設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# wlan wlan1
Switch(config-wlan)# service-policy output platinum
```

関連トピック

[wlan](#)

set

パケットで Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServ コードポイント) 値または IP プレシデンス値を設定して IP トラフィックを分類するには、ポリシーマップ クラス コンフィギュレーションモードで **set** コマンドを使用します。トラフィックの分類を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

set

cos|dscp|precedence|ip|qos-group|wlan

set cos

{cos-value} | **{cos|dscp|precedence|qos-group|wlan}** [**{table table-map-name}**]

set dscp

{dscp-value} | **{cos|dscp|precedence|qos-group|wlan}** [**{table table-map-name}**]

set ip {dscp|precedence}

set precedence *{precedence-value}* | **{cos|dscp|precedence|qos-group}** [**{table table-map-name}**]

set qos-group

{qos-group-value|dscp} [**{table table-map-name}**]**precedence** [**{table table-map-name}**]

set wlan user-priority

*user-priority-value|costable table-map-name|dsctable table-map-name|qos-group***table**

table-map-name|wlantable table-map-name

構文の説明

cos

発信パケットのレイヤ 2 サービス クラス (CoS) 値またはユーザ プライオリティを設定します。次の値を指定できます。

- *cos-value* : 0 ~ 7 の CoS 値。一般的に使用する値に対してはニーモニック名を入力することもできます。
- パケットに CoS 値を設定するためのパケットマーキング カテゴリを指定します。パケットマーキング値をマッピングおよび変換するためのテーブル マップも設定している場合は、これによって「map from」パケットマーキング カテゴリが確立されます。パケットマーキングカテゴリのキーワードは次のとおりです。
 - **cos** : CoS 値またはユーザプライオリティからの値を設定します。
 - **dscp** : DiffServ コードポイント (DSCP) からの値を設定します。
 - **precedence** : パケット優先順位からの値を設定します。
 - **qos-group** : QoS グループからの値を設定します。
 - **wlan** : WLAN ユーザプライオリティ値を設定します。
- (任意) **table** *table-map-name* : CoS 値の設定に使用される指定されたテーブル マップに設定されている値を示します。CoS 値の指定に使用されるテーブル マップの名前を入力します。テーブルマップ名には、最大 64 の英数字を使用できます。

パケットマーキング カテゴリを指定したが、テーブルマップを指定していない場合、デフォルトアクションは、パケットマーキングカテゴリに関連付けられた値を CoS 値としてコピーすることです。たとえば、**set cos precedence** コマンドを入力する場合、**precedence** (パケットマーキングカテゴリ) 値がコピーされ、CoS 値として使用されます。

dscp

IP (v4) および IPv6 パケットの DiffServ コードポイント (DSCP) を指定します。次の値を指定できます。

- **cos-value** : DSCP 値を設定する番号。範囲は 0 ~ 63 です。一般的に使用する値に対してはニーモニック名を入力することもできます。
- パケットに DSCP 値を設定するためのパケットマーキング カテゴリを指定します。パケットマーキング値をマッピングおよび変換するためのテーブルマップも設定している場合は、これによって「map from」パケットマーキング カテゴリが確立されます。パケットマーキングカテゴリのキーワードは次のとおりです。
 - **cos** : CoS 値またはユーザプライオリティからの値を設定します。
 - **dscp** : DiffServ コードポイント (DSCP) からの値を設定します。
 - **precedence** : パケット優先順位からの値を設定します。
 - **qos-group** : QoS グループからの値を設定します。
 - **wlan** : WLAN から値を設定します。
- (任意) **table table-map-name** : DSCP 値の設定に使用される指定されたテーブル マップに設定されている値を示します。DSCP 値の指定に使用されるテーブル マップの名前を入力します。テーブルマップ名には、最大 64 の英数字を使用できます。

パケットマーキング カテゴリを指定したが、テーブルマップを指定していない場合、デフォルトアクションは、パケットマーキング カテゴリに関連付けられた値を DSCP 値としてコピーすることです。たとえば、**set dscp cos** コマンドを入力する場合、CoS 値 (パケットマーキング カテゴリ) がコピーされ、DSCP 値として使用されます。

<p>ip</p>	<p>分類されたトラフィックに IP 値を設定します。次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • dscp : 0 ~ 63 の IP DSCP 値またはパケットマーキング カテゴリを指定します。 • precedence : IP ヘッダーの precedence ビット値を指定します (有効な値は 0 ~ 7)。または、パケットマーキング カテゴリを指定します。
<p>precedence</p>	<p>パケット ヘッダーに precedence 値を設定します。次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • precedence-value : パケット ヘッダーに precedence ビットを設定します。有効な値は 0 ~ 7 です。一般的に使用する値に対してはニック名を入力することもできます。 • パケットの優先順位値を設定するためのパケットマーキング カテゴリを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • cos : CoS またはユーザプライオリティからの値を設定します。 • dscp : DiffServ コードポイント (DSCP) からの値を設定します。 • precedence : パケット優先順位からの値を設定します。 • qos-group : QoS グループからの値を設定します。 • (任意) table table-map-name : 優先順位値の設定に使用される指定されたテーブル マップに設定されている値を示します。優先順位値の指定に使用されるテーブル マップの名前を入力します。テーブルマップ名には、最大 64 の英数字を使用できます。 <p>パケットマーキング カテゴリを指定したが、テーブルマップを指定していない場合、デフォルトアクションは、パケットマーキング カテゴリに関連付けられた値を優先順位値としてコピーすることです。たとえば、set precedence cos コマンドを入力する場合、CoS 値 (パケットマーキング カテゴリ) がコピーされ、優先順位値として使用されます。</p>

qos-group

後でパケットを分類するために使用できる QoS グループ ID を割り当てます。

- **qos-group-value** : 分類されたトラフィックに QoS 値を設定します。指定できる範囲は 0 ~ 31 です。一般的に使用する値に対してはニック名を入力することもできます。
- **dscp** : パケットの元の DSCP フィールド値を QoS グループ値として設定します。
- **precedence** : パケットの元の precedence フィールド値を QoS グループ値として設定します。
- (任意) **table table-map-name** : DSCP 値または優先順位値の設定に使用される指定されたテーブルマップに設定されている値を示します。値の指定に使用されるテーブルマップの名前を入力します。テーブルマップ名には、最大 64 の英数字を使用できます。

パケットマーキングカテゴリ (**dscp** または **precedence**) を指定したが、テーブルマップを指定していない場合、デフォルトアクションは、パケットマーキングカテゴリに関連付けられた値を QoS グループ値としてコピーすることです。たとえば、**set qos-group precedence** コマンドを入力する場合、優先順位値 (パケットマーキングカテゴリ) がコピーされ、QoS グループ値として使用されます。

wlanuser-priority *wlan-user-priority*

分類されたトラフィックに WLAN ユーザプライオリティを割り当てます。次の値を指定できます。

- **wlan-user-priority** : 分類されたトラフィックに WLAN ユーザプライオリティを設定します。指定できる範囲は 0 ~ 7 です。
- **cos** : レイヤ 2 CoS フィールド値を WLAN ユーザプライオリティとして設定します。
- **dscp** : DSCP フィールド値を WLAN ユーザプライオリティとして設定します。
- **precedence** : precedence フィールド値を WLAN ユーザプライオリティとして設定します。
- **wlan** WLAN ユーザプライオリティ フィールド値を WLAN ユーザプライオリティとして設定します。
- (任意) **table table-map-name** : WLAN ユーザプライオリティ値の設定に使用される指定されたテーブルマップに設定されている値を示します。値の指定に使用されるテーブルマップの名前を入力します。テーブルマップ名には、最大 64 の英数字を使用できます。

パケットマーキングカテゴリを指定したが、テーブルマップを指定していない場合、デフォルトアクションは、パケットマーキングカテゴリに関連付けられた値を WLAN ユーザプライオリティとしてコピーすることです。たとえば、**set wlan user-priority cos** コマンドを入力する場合、CoS 値 (パケットマーキングカテゴリ) がコピーされ、WLAN ユーザプライオリティとして使用されます。

コマンド デフォルト

トラフィックの分類は定義されていません。

コマンド モード

ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE 3.2SE、、、、

このコマンドが導入されました。

Cisco IOS XE 3.3SE

cos、**dscp**、**qos-group**、**wlantable** **table-map-name** の各キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

set dscp *dscp-value* コマンド、**set cos** *cos-value* コマンド、および **set ip precedence** *precedence-value* コマンドでは、一般的に使用される値にニーモニック名を入力できます。たとえば、**set dscp af11** コマンドを入力できます。これは **set dscp 10** コマンドの入力と同じです。**set ip precedence critical** コマンドを入力できます。これは **set ip precedence 5** コマンドの入力と同じです。サポートされているニーモニック名について、コマンドラインのヘルプストリングを表示するには、**set dscp ?** コマンドまたは **set ip precedence ?** コマンドを入力します。

set dscp cos コマンドを設定する場合は、CoS 値が 3 ビット フィールドで、DSCP 値は 6 ビット フィールドであり、CoS フィールドの 3 ビットのみが使用される点に注意してください。

set dscp qos-group コマンドを設定する場合は、次の点に注意してください。

- DSCP 値の有効な範囲は 0 ～ 63 の数字です。QoS グループの有効値の範囲は 0 ～ 99 です。
- QoS グループの値が両方の値の範囲内の場合（たとえば、44）、パケットマーキング値がコピーされ、パケットがマーク付けされます。
- QoS グループの値が DSCP の範囲を超える場合（たとえば、77）、パケットマーキング値はコピーされず、パケットはマーク付けされません。アクションは実行されません。

ポリシーマップ コンフィギュレーション モードでサービス ポリシーを作成し、インターフェイスまたは ATM 仮想回線 (VC) にサービス ポリシーを付加するまで、**set qos-group** コマンドは適用できません。

ポリシーマップ コンフィギュレーション モードに戻るには、**exit** コマンドを使用します。特権 EXEC モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

例

次の例では、ポリサーが設定されていないすべての FTP トラフィックに DSCP 値 10 を割り当てる方法を示します。

```
Switch(config)# policy-map policy_ftp
Switch(config-pmap)# class-map ftp_class
Switch(config-cmap)# exit
Switch(config)# policy policy_ftp
Switch(config-pmap)# class ftp_class
Switch(config-pmap-c)# set dscp 10
Switch(config-pmap)# exit
```

設定を確認するには、**show policy-map** 特権 EXEC コマンドを入力します。

関連トピック

- [class](#) (3 ページ)
- [policy-map](#) (13 ページ)
- [show policy-map](#) (44 ページ)

show ap name service-policy

特定の Cisco Lightweight アクセス ポイントのサービス ポリシー情報を表示するには、**show ap name service-policy** コマンドを使用します。

show ap name *ap-name* service-policy

構文の説明	<i>ap-name</i> Cisco Lightweight アクセス ポイントの名前。				
コマンド デフォルト	なし				
コマンド モード	任意のコマンド モード				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE 3.2SE、</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE 3.2SE、	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE 3.2SE、	このコマンドが導入されました。				

次の例では、特定の Cisco Lightweight アクセス ポイントのサービス ポリシー情報を表示する方法を示します。

```
Switch# show ap name 3502b service-policy
```

```
NAME: Cisco AP      , DESCR: Cisco Wireless Access Point
PID: 3502I  , VID: V01, SN: FTX1525E94A
```

```
NAME: Dot11Radio0   , DESCR: 802.11N 2.4GHz Radio
PID: UNKNOWN, VID:  , SN: FOC1522BLNA
```

```
NAME: Dot11Radio1   , DESCR: 802.11N 5GHz Radio
PID: UNKNOWN, VID:  , SN: FOC1522BLNA
```

show ap name dot11

特定の Cisco Lightweight アクセス ポイントに対応する 802.11a または 802.11b 設定情報を表示するには、**show ap name dot11** コマンドを使用します。

```
show ap name ap-name dot11 {24ghz|5ghz} {ccx|cdp|profile|service-policy output|stats|tsm
{allclient-mac}}
```

構文の説明		
	<i>ap-name</i>	Cisco Lightweight アクセス ポイントの名前。
	24ghz	2.4 GHz 帯域を表示します。
	5ghz	5 GHz 帯域を表示します。
	ccx	Cisco Client eXtensions (CCX) 無線管理ステータス情報を表示します。
	cdp	シスコ検出プロトコル (CDP) 情報を表示します。
	profile	802.11 プロファイルの設定と統計情報を表示します。
	service-policyoutput	ダウンストリームのサービス ポリシー情報を表示します。
	stats	Cisco Lightweight アクセス ポイントの統計情報を表示します。
	tsm	802.11 トラフィック ストリーム メトリックの統計情報を表示します。
	all	クライアントがアソシエーションを持つすべてのアクセス ポイントのリストを表示します。
	<i>client-mac</i>	クライアントの MAC アドレス。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE 3.2SE、	、、、、 このコマンドが導入されました。

次の例では、アクセス ポイントに関連付けられたサービス ポリシーを表示する方法を示します。

```
Switch# show ap name test-ap dot11 24ghz service-policy output
```

```
Policy Name : test-ap1
Policy State : Installed
```

次の例では、特定のアクセスポイントの CCX RRM 802.11 の設定を表示する例を示します。

```
Switch# show ap name AP01 dot11 24ghz ccx
```

次の例では、特定のアクセスポイントの CDP 情報を表示する方法を示します。

```
Switch# show ap name AP01 dot11 24ghz cdp
```

```
AP Name          AP CDP State
-----
AP03             Disabled
```

次の例では、特定のアクセスポイントの 802.11b プロファイルの設定と統計情報を表示する方法を示します。

```
Switch# show ap name AP01 dot11 24ghz profile
```

```
802.11b Cisco AP performance profile mode      : GLOBAL
802.11b Cisco AP Interference threshold       : 10 %
802.11b Cisco AP noise threshold              : -70 dBm
802.11b Cisco AP RF utilization threshold     : 80 %
802.11b Cisco AP throughput threshold        : 1000000 bps
802.11b Cisco AP clients threshold           : 12 clients
```

次の例では、特定のアクセスポイントのダウンストリームのサービスポリシー情報を表示する方法を示します。

```
Switch# show ap name AP01 dot11 24ghz service-policy output
```

```
Policy Name   : def-11gn
Policy State  : Installed
```

次の例では、特定のアクセスポイントの統計情報を表示する方法を示します。

```
Switch# show ap name AP01 dot11 24ghz stats
```

```
Number of Users.....: 0
TxFragmentCount.....: 0
MulticastTxFrameCnt.....: 0
FailedCount.....: 0
RetryCount.....: 0
MultipleRetryCount.....: 0
FrameDuplicateCount.....: 0
RtsSuccessCount.....: 0
RtsFailureCount.....: 0
AckFailureCount.....: 0
RxIncompleteFragment.....: 0
MulticastRxFrameCnt.....: 0
FcsErrorCount.....: 0
TxFrameCount.....: 0
WepUndecryptableCount.....: 0
TxFramesDropped.....: 0

Call Admission Control (CAC) Stats
  Voice Bandwidth in use(% of config bw).....: 0
  Video Bandwidth in use(% of config bw).....: 0
  Total BW in use for Voice(%).....: 0
  Total BW in use for SIP Preferred call(%).....: 0
```

```
Load based Voice Call Stats
  Total channel MT free.....: 0
  Total voice MT free.....: 0
  Na Direct.....: 0
  Na Roam.....: 0

WMM TSPEC CAC Call Stats
  Total num of voice calls in progress.....: 0
  Num of roaming voice calls in progress.....: 0
  Total Num of voice calls since AP joined.....: 0
  Total Num of roaming calls since AP joined.....: 0
  Total Num of exp bw requests received.....: 0
  Total Num of exp bw requests admitted.....: 0
  Num of voice calls rejected since AP joined....: 0
  Num of roam calls rejected since AP joined....: 0
  Num of calls rejected due to insufficient bw....: 0
  Num of calls rejected due to invalid params....: 0
  Num of calls rejected due to PHY rate.....: 0
  Num of calls rejected due to QoS policy.....: 0

SIP CAC Call Stats
  Total Num of calls in progress.....: 0
  Num of roaming calls in progress.....: 0
  Total Num of calls since AP joined.....: 0
  Total Num of roaming calls since AP joined.....: 0
  Total Num of Preferred calls received.....: 0
  Total Num of Preferred calls accepted.....: 0
  Total Num of ongoing Preferred calls.....: 0
  Total Num of calls rejected(Insuff BW).....: 0
  Total Num of roam calls rejected(Insuff BW)....: 0

Band Select Stats
  Num of dual band client .....: 0
  Num of dual band client added.....: 0
  Num of dual band client expired .....: 0
  Num of dual band client replaced.....: 0
  Num of dual band client detected .....: 0
  Num of suppressed client .....: 0
  Num of suppressed client expired.....: 0
  Num of suppressed client replaced.....: 0
```

次の例では、特定のアクセスポイントに対応するすべてのクライアントのトラフィック ストリームの設定を表示する方法を示します。

```
Switch# show ap name AP01 dot11 24ghz tsm all
```

show class-map

トラフィックを分類するための一致基準を定義するサービス品質 (QoS) クラスマップを表示するには、**show class-map** コマンドを EXEC モードで使用します。

```
show class-map [class-map-name | type control subscriber {all | class-map-name}]
```

構文の説明	<i>class-map-name</i>	(任意) クラス マップ名。
	type control subscriber	(任意) コントロール クラス マップに関する情報を表示します。
	all	(任意) すべてのコントロールクラスマップに関する情報を表示します。
コマンドモード	ユーザ EXEC 特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE 3.2SE、、、、	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、**show class-map** コマンドの出力を示します。

```
Switch# show class-map
Class Map match-any videowizard_10-10-10-10 (id 2)
  Match access-group name videowizard_10-10-10-10

Class Map match-any class-default (id 0)
  Match any
Class Map match-any dscp5 (id 3)
  Match ip dscp 5
```

関連トピック

[class-map](#) (6 ページ)

show wireless client calls

スイッチのアクティブなコールまたは拒否されたコールの合計数を表示するには、特権 EXEC モードで **show wireless client calls** コマンドを使用します。

show wireless client calls {active | rejected}

構文の説明

active アクティブなコールが表示されます。

rejected 拒否されたコールが表示されます。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース 変更内容

Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 このコマンドが導入されました。

次に、**show wireless client calls** コマンドの出力例を示します。

スイッチ# **show wireless client calls active**

TSPEC Calls:

```
-----
MAC Address      AP Name          Status           WLAN  Authenticated
-----
0000.1515.000f   AP-2             Associated       1     Yes
```

SIP Calls:

```
-----
Number of Active TSPEC calls on 802.11a and 802.11b/g: 1
Number of Active SIP calls on 802.11a and 802.11b/g: 0
```

show wireless client dot11

特定の帯域（2.4 GHz または 5 GHz）のアクティブなコールまたは拒否されたコールの合計数を表示するには、特権 EXEC モードで **show wireless client dot11** コマンドを使用します。

show wireless client dot11 {24ghz | 5ghz} calls {active | rejected}

構文の説明	24ghz 802.11b/g ネットワークを表示します。
	5ghz 802.11a ネットワークを表示します。
	calls ワイヤレスクライアントのコールを表示します。
	active アクティブなコールが表示されます。
	rejected 拒否されたコールが表示されます。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE 3.2SE、	、、、、 このコマンドが導入されました。

次に、**show wireless client dot11** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show wireless client dot11 5ghz calls active
```

```
TSPEC Calls:
-----
```

```
SIP Calls:
-----
```

```
Number of Active TSPEC calls on 802.11a: 0
Number of Active SIP calls on 802.11a: 0
```


show wireless client mac-address (コール制御)

クライアントに関連するコール制御情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show wireless client mac-address** コマンドを使用します。

show wireless client mac-address mac-address call-control call-info

構文の説明	<i>mac-address</i> クライアントの MAC アドレス。
	call-control call-info クライアントに関するコール制御と IP 関連の情報を表示します。
コマンドデフォルト	なし
コマンドモード	特権 EXEC
コマンド履歴	リリース 変更内容 Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 このコマンドが導入されました。

次の例では、クライアントに関するコール制御および IP に関する情報を表示する方法を示します。

```
Switch# show wireless client mac-address 30e4.db41.6157 call-control call-info
Client MAC Address      : 30E4DB416157

Call 1 Statistics

Uplink IP Address      : 209.165.200.225
Downlink IP Address    : 209.165.200.226
Uplink Port            : 29052
Downlink Port          : 27538
Call ID                : c40acb4d-3b3b0.3d27dale-356bed03
Called Party           : sip:1011
Calling Party          : sip:1012
Priority                : 6
Call On Hold           : false
Call Duration          : 30

Call 2 Statistics

No Active Call
```

show wireless client mac-address (TCLAS)

TCLAS およびユーザ プライオリティに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show wireless client mac-address** コマンドを使用します。

show wireless client mac-address mac-address tclas

構文の説明

mac-address クライアントの MAC アドレス。

tclas TCLAS およびクライアントに関するユーザ プライオリティ関連の情報を表示します。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース 変更内容

Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 このコマンドが導入されました。

この例は、クライアントの TCLAS およびユーザ プライオリティ関連の情報を表示する方法を示しています。

```
Switch# show wireless client mac-address 30e4.db41.6157 tclas
MAC Address      UP TID Mask Source IP Addr  Dest IP Addr  SrcPort DstPort Proto
-----
30e4.db41.6157   4  4  95 167838052      2164326668    5060    5060    6
30e4.db41.6157   6  1  31 0              2164326668    0       27538   17
```

show wireless client voice diagnostics

ワイヤレスクライアントの音声診断パラメータを表示するには、特権 EXEC モードで **show wireless client voice diagnostics** コマンドを使用します。

show wireless client voice diagnostics {qos-map | roam-history | rssi | status | tspec}

構文の説明

qos-map	QoS および DSCP マッピングに関する情報と 4 つのキュー (VO、VI、BE、BK) それぞれのパケット統計を表示します。各種 DSCP 値も表示されます。
roam-history	既知の各クライアントの直前の 3 つのローミング履歴に関する情報を表示します。出力にはタイムスタンプ、ローミングに関連するアクセスポイント、ローミングの理由が含まれ、ローミングに失敗した場合には失敗の理由も含まれます。
rssi	音声診断がイネーブルである場合に、直前の 5 秒間のクライアントの RSSI 値を表示します。
status	クライアントの音声診断の状態を表示します。
tspec	TSPEC クライアントに対して有効になっている音声診断を表示します。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.2SE、、、、	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ音声診断は、音声診断を実行するにはイネーブルにする必要があります。

次に、**show wireless client voice diagnostics status** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show wireless client voice diagnostics status
Voice Diagnostics Status: FALSE
```

show policy-map

着信トラフィックの分類基準を定義するサービス品質（QoS）のポリシーマップを表示するには、EXEC モードで **show policy-map** コマンドを使用します。

```
show policy-map [{policy-map-name}interface interface-id]
```

```
show policy-map interface {Auto-template | Capwap | GigabitEthernet | GroupVI |
InternalInterface | Loopback | Lspvif | Null | Port-channel | TenGigabitEthernet |
Tunnel | Vlan | brief | class | input | output}
```

```
show policy-map type control subscriber detail
```

```
show policy-map interface wireless {ap name ap_name | client mac mac_address | radio type
{24ghz | 5ghz} ap name ap_name | ssid name ssid_name {ap name ap_name | radio type {24ghz
| 5ghz} ap name ap_name}}
```

構文の説明

<i>policy-map-name</i>	(任意) ポリシーマップの名前。
interface <i>interface-id</i>	(任意) インターフェイスに適用された入力ポリシーと出力ポリシーの統計情報と設定を表示します。
type control subscriber detail	(任意) QoS ポリシーのタイプと統計情報を特定します。
ap name <i>ap_name</i>	アクセス ポイントの SSID ポリシー設定を表示します。
client mac <i>mac_address</i>	すべてのクライアントターゲットのポリシーに関する情報を表示します。
radio type {24ghz 5ghz}	指定された無線タイプのアクセスポイントのポリシー設定を表示します。
ssid name <i>ssid_name</i>	SSID のポリシー設定を表示します。

コマンドモード

ユーザ EXEC

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.2SE、、、、	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE 3.3SE	The interface <i>interface-id</i> keyword was added.

使用上のガイドライン

ポリシーマップには、帯域幅制限および制限を超過した場合の対処法を指定するポリサーを格納できます。



(注) **control-plane**、**session**、および **type** キーワードは、コマンドラインのヘルプストリングには表示されますが、サポートされていません。表示されている統計情報は無視してください。

TCAM (Ternary Content Addressable Memory) (マーキングまたはポリシング) の分類カウンタを表示するには、インターフェイス ID を入力します。分類カウンタには次の制限事項があります。

- フィルタベースの分類カウンタはサポートされません。
- 分類カウンタは有線ポートでのみサポートされます (イングレスとイーグレス方向)。
- 分類カウンタは、バイトの代わりにパケットをカウントします。
- マーキングまたはポリシングによる QoS 設定だけが、分類カウンタをトリガーします。
- ポリシー内にポリシングまたはマーキングアクションがある限り、クラス デフォルトは分類カウンタを保持します。
- 分類カウンタはポート ベースではありません。カウンタは同じポリシー マップを共有するターゲット間で共有されます。これは、分類カウンタが、異なるインターフェイスに接続し、同じポリシーの同じクラスに属するすべてのパケットを集約することを意味します。

次に、分類カウンタが表示されている **show policy-map interface** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show policy-map interface gigabitethernet1/0/1

GigabitEthernet1/0/1

Service-policy input: AutoQos-4.0-CiscoPhone-Input-Policy

Class-map: AutoQos-4.0-Voip-Data-CiscoPhone-Class (match-any)
  0 packets
  Match: cos 5
    0 packets, 0 bytes
    5 minute rate 0 bps
  QoS Set
    dscp ef
  police:
    cir 128000 bps, bc 8000 bytes
    conformed 0 bytes; actions:
      transmit
    exceeded 0 bytes; actions:
      set-dscp-transmit dscp table policed-dscp
    conformed 0000 bps, exceed 0000 bps

Class-map: AutoQos-4.0-Voip-Signal-CiscoPhone-Class (match-any)
  0 packets
  Match: cos 3
    0 packets, 0 bytes
    5 minute rate 0 bps
  QoS Set
    dscp cs3
  police:
```

```

    cir 32000 bps, bc 8000 bytes
    conformed 0 bytes; actions:
      transmit
    exceeded 0 bytes; actions:
      set-dscp-transmit dscp table policed-dscp
    conformed 0000 bps, exceed 0000 bps

Class-map: AutoQos-4.0-Default-Class (match-any)
  0 packets
  Match: access-group name AutoQos-4.0-Acl-Default
    0 packets, 0 bytes
    5 minute rate 0 bps
  QoS Set
    dscp default

Class-map: class-default (match-any)
  0 packets
  Match: any
    0 packets, 0 bytes
    5 minute rate 0 bps

Service-policy output: AutoQos-4.0-Output-Policy

queue stats for all priority classes:
  Queueing
  priority level 1

  (total drops) 0
  (bytes output) 0

Class-map: AutoQos-4.0-Output-Priority-Queue (match-any)
  0 packets
  Match: dscp cs4 (32) cs5 (40) ef (46)
    0 packets, 0 bytes
    5 minute rate 0 bps
  Match: cos 5
    0 packets, 0 bytes
    5 minute rate 0 bps
  Priority: 30% (300000 kbps), burst bytes 7500000,

  Priority Level: 1

Class-map: AutoQos-4.0-Output-Control-Mgmt-Queue (match-any)
  0 packets
  Match: dscp cs2 (16) cs3 (24) cs6 (48) cs7 (56)
    0 packets, 0 bytes
    5 minute rate 0 bps
  Match: cos 3
    0 packets, 0 bytes
    5 minute rate 0 bps
  Queueing
  queue-limit dscp 16 percent 80
  queue-limit dscp 24 percent 90
  queue-limit dscp 48 percent 100
  queue-limit dscp 56 percent 100

  (total drops) 0
  (bytes output) 0
  bandwidth remaining 10%

  queue-buffers ratio 10

Class-map: AutoQos-4.0-Output-Multimedia-Conf-Queue (match-any)
  0 packets

```

```
Match: dscp af41 (34) af42 (36) af43 (38)
      0 packets, 0 bytes
      5 minute rate 0 bps
Match: cos 4
      0 packets, 0 bytes
      5 minute rate 0 bps
Queueing

(total drops) 0
(bytes output) 0
bandwidth remaining 10%
queue-buffers ratio 10

Class-map: AutoQos-4.0-Output-Trans-Data-Queue (match-any)
  0 packets
Match: dscp af21 (18) af22 (20) af23 (22)
      0 packets, 0 bytes
      5 minute rate 0 bps
Match: cos 2
      0 packets, 0 bytes
      5 minute rate 0 bps
Queueing

(total drops) 0
(bytes output) 0
bandwidth remaining 10%
queue-buffers ratio 10

Class-map: AutoQos-4.0-Output-Bulk-Data-Queue (match-any)
  0 packets
Match: dscp af11 (10) af12 (12) af13 (14)
      0 packets, 0 bytes
      5 minute rate 0 bps
Match: cos 1
      0 packets, 0 bytes
      5 minute rate 0 bps
Queueing

(total drops) 0
(bytes output) 0
bandwidth remaining 4%
queue-buffers ratio 10

Class-map: AutoQos-4.0-Output-Scavenger-Queue (match-any)
  0 packets
Match: dscp cs1 (8)
      0 packets, 0 bytes
      5 minute rate 0 bps
Queueing

(total drops) 0
(bytes output) 0
bandwidth remaining 1%
queue-buffers ratio 10

Class-map: AutoQos-4.0-Output-Multimedia-Strm-Queue (match-any)
  0 packets
Match: dscp af31 (26) af32 (28) af33 (30)
      0 packets, 0 bytes
      5 minute rate 0 bps
Queueing

(total drops) 0
(bytes output) 0
```

```
bandwidth remaining 10%
queue-buffers ratio 10

Class-map: class-default (match-any)
 0 packets
Match: any
 0 packets, 0 bytes
 5 minute rate 0 bps
Queueing

(total drops) 0
(bytes output) 0
bandwidth remaining 25%
queue-buffers ratio 25
```

関連トピック

[policy-map](#) (13 ページ)

show wlan

WLAN パラメータを表示するには、**show wlan** コマンドを使用します。

```
show wlan {all |id wlan-id|name wlan-name |summary}
```

構文の説明	all	すべての設定済み WLAN のパラメータのサマリーを表示します。リストはWLANIDの昇順に表示されます。
	id wlan-id	無線 LAN の識別子を指定します。範囲は 1 ～ 512 です。
	name wlan-name	WLAN プロファイル名を指定します。名前は 1 ～ 32 文字です。
	summary	WLAN に設定されているパラメータのサマリーを表示します。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴 リリース 変更内容

Cisco IOS XE 3.2SE、、、、 このコマンドが導入されました。

次に、デバイスに設定されている WLAN のサマリーを表示する例を示します。

```
Switch# show wlan summary
Number of WLANs: 1
```

WLAN Profile Name	SSID	VLAN	Status
45 test-wlan	test-wlan-ssid	1	UP

次に、特定の WLAN に設定されているパラメータのサマリーを表示する例を示します。

```
Switch# show wlan name test-wlan
WLAN Identifier           : 45
Profile Name              : test-wlan
Network Name (SSID)      : test-wlan-ssid
Status                    : Enabled
Broadcast SSID           : Enabled
Maximum number of Associated Clients : 0
AAA Policy Override      : Disabled
Network Admission Control
  NAC-State               : Disabled
Number of Active Clients  : 0
Exclusionlist Timeout     : 60
Session Timeout          : 1800 seconds
```

```

CHD per WLAN : Enabled
Webauth DHCP exclusion : Disabled
Interface : default
Interface Status : Up
Multicast Interface : test
WLAN IPv4 ACL : test
WLAN IPv6 ACL : unconfigured
DHCP Server : Default
DHCP Address Assignment Required : Disabled
DHCP Option 82 : Disabled
DHCP Option 82 Format : ap-mac
DHCP Option 82 Ascii Mode : Disabled
DHCP Option 82 Rid Mode : Disabled
QoS Service Policy - Input
  Policy Name : unknown
  Policy State : None
QoS Service Policy - Output
  Policy Name : unknown
  Policy State : None
QoS Client Service Policy
  Input Policy Name : unknown
  Output Policy Name : unknown
WifiDirect : Disabled
WMM : Disabled
Channel Scan Defer Priority:
  Priority (default) : 4
  Priority (default) : 5
  Priority (default) : 6
Scan Defer Time (msecs) : 100
Media Stream Multicast-direct : Disabled
CCX - AironetIe Support : Enabled
CCX - Gratuitous ProbeResponse (GPR) : Disabled
CCX - Diagnostics Channel Capability : Disabled
Dot11-Phone Mode (7920) : Invalid
Wired Protocol : None
Peer-to-Peer Blocking Action : Disabled
Radio Policy : All
DTIM period for 802.11a radio : 1
DTIM period for 802.11b radio : 1
Local EAP Authentication : Disabled
Mac Filter Authorization list name : Disabled
Accounting list name : Disabled
802.1x authentication list name : Disabled
Security
  802.11 Authentication : Open System
  Static WEP Keys : Disabled
  802.1X : Disabled
  Wi-Fi Protected Access (WPA/WPA2) : Enabled
    WPA (SSN IE) : Disabled
    WPA2 (RSN IE) : Enabled
      TKIP Cipher : Disabled
      AES Cipher : Enabled
  Auth Key Management
    802.1x : Enabled
    PSK : Disabled
    CCKM : Disabled
  IP Security : Disabled
  IP Security Passthru : Disabled
  L2TP : Disabled
  Web Based Authentication : Disabled
  Conditional Web Redirect : Disabled
  Splash-Page Web Redirect : Disabled
  Auto Anchor : Disabled
  Sticky Anchoring : Enabled

```

```
Cranite Passthru           : Disabled
Fortress Passthru         : Disabled
PPTP                       : Disabled
Infrastructure MFP protection : Enabled
Client MFP                 : Optional
Webauth On-mac-filter Failure : Disabled
Webauth Authentication List Name : Disabled
Webauth Parameter Map     : Disabled
Tkip MIC Countermeasure Hold-down Timer : 60
Call Snooping              : Disabled
Passive Client              : Disabled
Non Cisco WGB              : Disabled
Band Select                 : Disabled
Load Balancing              : Disabled
IP Source Guard             : Disabled
Netflow Monitor             : test
    Direction               : Input
    Traffic                  : Datalink

Mobility Anchor List
IP Address
-----
```

trust device

インターフェイスに接続されているサポートデバイスに対する信頼を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **trust device** コマンドを使用します。接続デバイスに対する信頼を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
trust device {cisco-phone | cts | ip-camera | media-player}
no trust device {cisco-phone | cts | ip-camera | media-player}
```

構文の説明

cisco-phone Cisco IP Phone を設定します。

cts Cisco TelePresence System を設定します。

ip-camera Video Surveillance IP カメラ (IPVSC) を設定します。

media-player Cisco Digital Media Player (DMP) を設定します。

コマンド デフォルト

信頼はディセーブルに設定

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.2SE、	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

trust device コマンドは、次のタイプのインターフェイスに使用します。

- **Auto** : 自動テンプレート インターフェイス
- **Capwap** : Capwap トンネル インターフェイス
- **GigabitEthernet** : Gigabit Ethernet IEEE 802
- **GroupVI** : グループ仮想インターフェイス
- **Internal Interface** : 内部インターフェイス
- **Loopback** : ループバック インターフェイス
- **Null** : ノル インターフェイス
- **Port-channel** : イーサネット チャネル インターフェイス
- **TenGigabitEthernet** : 10 ギガビット イーサネット
- **Tunnel** : トンネル インターフェイス
- **Vlan** : Catalyst VLAN
- **range** : **interface range** コマンド

例

次に、インターフェイス GigabitEthernet 1/0/1 で Cisco IP Phone の信頼を設定する例を示します。

```
Switch(config)# interface GigabitEthernet1/0/1  
Switch(config-if)# trust device cisco-phone
```

設定を確認するには、**show interface status** 特権 EXEC コマンドを入力します。

